

調査の概要

1. 調査の目的

特別養護老人ホームの入居者は年々高齢化し、それにともない疾病・障害の重い人が増えている。そのため、関係者間では、施設内の医療・看護の充実について関心が高まっている。ところが、施設内でどこまで医療上の対応をするのかについて共通認識が乏しく、看護職の役割イメージもまちまちである。それに加えて、看護職員数の少なさや位置づけの低さなどの問題が、看護職の役割遂行を困難にしている。

そこで入居者の病態、医療の状況、看護職の配置状況、看護職の役割のとり方などの実態、今後の施設内医療についての看護職の考え方などを把握し、①施設内での医療上の対応および看護職の役割について共通認識を形成するための材料を提供すること、および②看護職の役割のとり方が、疾病・障害を持った老人のホームとしての受け入れ能力にどう影響しているか、また何が看護職の役割遂行を阻んでいるかを探り、改善への提言をすることを目的として調査を行った。

2. 調査対象

1984年4月以前に開設された特別養護老人ホーム全数（1509施設）

3. 調査方法

調査票を施設長宛に郵送し、婦長（婦長がない場合には、看護職のまとめ役）が記入する自計式アンケート。なお、調査実施にあたり、全国社会福祉協議会老人福祉施設協議会の協力を得た。

4. 調査の時期

1990年1月現在の状況について回答を求めた。

5. 調査票の回収状況

有効回収数881（回収率58.4%）

6. 調査の担当

調査の企画・実施、報告書作成は日本看護協会調査研究室の岩下清子が担当した。なお調査票の設計および調査結果の分析に関し、渡辺タツ子（千葉市和陽園看護婦長）、五島シズ（緑寿園現任教育担当

看護婦)の協力を、また集計に関し林幸範(調査研究室嘱託)の協力を得た。

特別養護老人ホームにおける保健医療および 看護職員の役割に関する調査

看護婦殿

1990年 1月

社団法人 日本看護協会

日本看護協会では、老人福祉施設において看護職が担うべき役割について検討を重ね、昨年、小冊子「老人福祉施設における看護職の役割と機能」をまとめ、公表しました。今年はその上に立って、この調査を実施することにしました。

特別養護老人ホームの入所者が高齢化し、疾病・障害が重度化する中で、看護職が健康管理面で果たす役割は重要となっています。しかし、看護職の役割や、施設内でどこまで医療面の対応をするかについて、関係者間の共通認識が乏しく、看護職にとって役割を果たしにくい状況があると思われます。そこで、入所者および医療の状況、看護職が担っている役割の実態を把握し、看護職が十分にその役割を果たせるよう対策をたてる上での参考資料を得るために、この調査を企画しました。

質問の中には、答えにくいものもあるかもしれませんが、調査結果は統計的処理をし、お答えになった方にはご迷惑をかけることのないようにしますので、どうぞ率直なお答えをお寄せ下さいますよう、お願い申し上げます。

- * 実施施設の婦長（婦長の役職がない場合は、看護職の中のリーダー的な立場にある人）がお答え下さい。
- * 2月末日までに、同封の封筒にてご返送下さい。

〈この調査についての問い合わせ先〉 〒150 東京都渋谷区神宮前5-8-2

日本看護協会調査研究室

電話 03-400-8331

- ☆ さしつかえなければ、施設名、回答者名をご記入下さい
(施設名をご記入いただければ、調査結果の概要をお送りします)。

施設名 ()

回答者名 ()

*この欄には記入
しないで下さい。

1	5		
	6		

☆ 以下の質問は、特にことわりのない場合、平成2年1月末日現在の実情についてお答え下さい。

☆ あてはまる選択肢の番号に○をつけ、には適当な数字を記入して下さい。()は文字でお答え下さい。

*この欄には記入しないで下さい。

〈はじめに、貴施設の概況をおうかがいします〉

F 1 住所 () 県

<input type="text"/>	<input type="text"/>	8
----------------------	----------------------	---

F 2 設置主体

1. 公立(組合立を含む) 2. 官設民営 3. 社会福祉法人(2を除く) 4. その他

<input type="text"/>	9
----------------------	---

F 3 施設開設年 昭和 年

<input type="text"/>	<input type="text"/>	11
----------------------	----------------------	----

F 4 入所者の定員と実員

平成2年1月末日現在の定員 名、実員 名。

過去5年間(昭和60年4月~平成元年12月)の間に定員に変更があった場合、昭和・平成
年までは 名であった。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	14
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	17

<input type="text"/>	<input type="text"/>	19
----------------------	----------------------	----

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	22
----------------------	----------------------	----------------------	----

F 5 看護職員数

	常 勤		非 常 勤	
	看 護 婦	准看護婦	看 護 婦	准看護婦
貴施設(特別養護老人ホーム)の入所者のみを担当する看護職員	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
貴施設が実施する地域福祉サービスを兼務する看護職員	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
貴施設が実施する地域福祉サービスのみを担当する看護職員	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	26
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	30
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	34

F 6 入所者の処遇に直接従事する看護職以外の職員数 (いない場合は0と記入して下さい)

	常 勤	非 常 勤
寮 母(父) 〔うち介護福祉士有資格者〕	[]	[]
生 活 指 導 員	<input type="text"/>	<input type="text"/>
栄 養 士	<input type="text"/>	<input type="text"/>
作 業 療 法 士	<input type="text"/>	<input type="text"/>
理 学 療 法 士	<input type="text"/>	<input type="text"/>
その他 ()	<input type="text"/>	<input type="text"/>

寮	常	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	37
	非	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	39
介	常	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	41
	非	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	43
福		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	53

F 7 施設長の職種

1. 医 師 2. 看 護 職 3. 薬 剤 師 4. 栄 養 士
5. 介 護 福 祉 士 6. 保 母 7. そ の 他

<input type="text"/>	54
----------------------	----

1990年調査 特別養護老人ホームにおける保健医療と看護

〈次に、回答いただいているあなたご自身のことをおたずねします〉

F 8 あなたの満年齢 歳

*この欄には記入
しないで下さい。
 56

F 9 所持免許

1. 保健婦 2. 助産婦 3. 看護婦 4. 准看護婦

60

F 10 今の施設での就業年数（6カ月未満は切り捨て、6カ月以上は1年とする） 年

62

F 11 次にあげるもののうち、3年以上の就業経験のあるすべてに○をつけて下さい。

1. 他の老人福祉施設 2. 病院 3. 診療所
4. 保健所または市町村 5. 看護婦等養成施設 6. その他 ()

68

F 12 あなたは、ホーム内の他の看護職員を統括する立場にありますか。

1. 他に看護職はいない。
2. 看護職は全員が横並びである。
3. 実質的に自分が統括している。
4. 婦長（またはそれに代る名称）の職位についている。
5. 看護職、寮母ともに統括する職位についている。

69

F 13 あなたの直属上司

1. 施設長 2. 生活指導員 3. 寮母長 4. その他 ()

70

〈貴施設の医療状況についておたずねします〉

問 1 常勤医（1日6時間週5日以上勤務）がいますか。

1. いる 2. いない

71

問 2 貴施設の施設内診療所は保険医療機関ですか。

1. はい 2. いいえ

72

問 3 併設または隣接の医療機関がありますか。

1. 病院がある 2. 診療所がある 3. 病院と診療所がある 4. ない

73

問 4 診療科別に医師の定期的回診のあるものの番号に○印をつけ、その回数を記入して下さい（医師の所属や契約の形態のいかんを問わない）。

1. 内科医 → 週 回または月 回
2. 精神科医 → 週 回または月 回
3. 歯科医 → 週 回または月 回
4. 整形外科医 → 週 回または月 回
5. その他 () → 週 回または月 回
6. その他 () → 週 回または月 回

76
 78
 5
 7
 9
 11
 13
5 15
6

1990年調査 特別養護老人ホームにおける保健医療と看護

問11 退所理由別退所者数（過去5年間）

	家族ひきとり	ホームで死亡	入院先で死亡	入院による措置廃止		その他	計
				一般病院	精神病院		
昭和60年度							
61年度							
62年度							
63年度							
平成元年4月~12月							

*この欄には記入しないで下さい。

51~78は左の表

	3	5

6~47は左の表

問12 調査日現在、次のような状態にある人は何人いますか（1人の入所者が2つ以上の項目に該当する場合は、それぞれを1名として下さい。該当者がいない場合は0と記入して下さい）。

慢性疾患を持ち、治療を受けている	名
常時服薬している	名
定期的に注射をしている	名
嚥下障害がある	名
四肢の麻痺がある	名
バルンカテーテルを挿入している	名
経管で栄養摂取している	名
気管カニューレをつけている	名
人工肛門を造設している	名
ペースメーカーをつけている	名
その他（ ）	名
その他（ ）	名

		49
		51
		53
		55
		57
		59
		61
		63
		65
		67
		69

	4	5

問13 バルンカテーテル、胃チューブなどの医療器具を装着したままで入所し、入所後にそれを取り外すことができたケースが、過去5年間にありましたか。

1. ある → 名 (医療器具の種類

2. ない

<input type="text"/>	6	
<input type="text"/>		8
<input type="text"/>	9	

問14 入所者の精神的状況についておたずねします。次のような行動上の問題のある人は何人いますか
 (1人の入所者が2つ以上の項目に該当する場合は、それぞれを1名として下さい。該当者がいない場合は0と記入して下さい)。

*この欄には記入しないで下さい。

むやみに暴力をふるう	名
不潔行為がある、便所以外で排泄する	名
徘徊する、外出したがる	名
火の不始末をする、火をもてあそぶ	名
蒐集癖がある	名
過食、拒食、異食をする	名
被害妄想がある、被害的思考がある	名
大声をあげる	名
夜間に騒ぐ	名
性的異常行動がみられる	名
他人の物と自分の物との区別がつかない	名
他人に干渉しすぎる	名
自殺念慮がある	名
しばしば入浴を拒否する	名
作話がみられる	名
その他 ()	名
その他 ()	名
その他 ()	名
上記の問題行動が1つでもある人の実数	名
うち向精神薬服薬者数	名

		11
		13
		15
		17
		19
		21
		23
		25
		27
		29
		31
		33
		35
		37
		39
		41
		44
		46

問15 先月(平成元年12月)1カ月間に次のようなことは何件ありましたか。

- (イ) 入院 件、うち看護職が付き添ったもの 件
- (ロ) 退院 件、うち看護職が迎えに行ったもの 件
- (ハ) 外部の医療機関への通院 件、うち看護職が付き添ったもの 件
- (ニ) 入所者が急性症状を呈していた日数の合計(但し入院期間を除く) 延 日

例: Aさんが風邪で7日、Bさんが下痢で3日で治療が終わった場合、延10日(7+3)とする。

			50
			54
			58
			61

〈健康管理に関する看護婦の役割のとり方についておたずねします〉

*この欄には記入
しないで下さい。

問16 入所希望者が入所する前に、看護職は本人に面接し、健康状態の把握を行っていますか。

1. いつも面接する。
2. 面接することもある。
3. 面接することはない。

→ S Q 1 できれば面接したいと思っていますか。

1. はい
2. いいえ

→ S Q 2 しない、あるいはできない理由は何でしょうか。

()

 62

 63

 64

問17 入所者自身が、自分の健康状態を知り、自分で健康に気を配ったり、適切な援助を求めるための教育を、看護職は入所者に対して行っていますか。

1. はい → どのような機会に ()
2. いいえ

→ S Q 1 できればしたいと思いませんか。

1. はい
2. いいえ

→ S Q 2 しない、あるいはできない理由は何でしょうか。

()

 65 66

 67

 68

問18 入所者の日々の健康状態を把握するための情報を寮母から得ていますか。該当するものすべてに○をつけて下さい。

1. 毎日報告を受ける。
2. 適宜報告を受ける。
3. カンファレンスの時に情報を得る。
4. 寮母が記入する日誌から情報を得る。
5. 寮母から情報を得ることは、ほとんどない。

→ S Q 1 できれば寮母から情報を得たいと思っていますか。

1. はい
2. いいえ

→ S Q 2 情報を得ていない、または得られない理由は何でしょうか。

()

 73

 74

 75

5	5
---	---

問19 看護職は寮母に対し、入所者の健康管理に関する知識を伝えたり、相談・助言に応じていますか。
該当するものすべてに○をつけて下さい。

1. 必要に応じて行っている。
2. カンファレンスの時に行っている。
3. 施設内研修会で行っている。
4. そのようなことはしていない。

S Q それほどのような内容ですか。該当するものすべてに○をつけて下さい。

1. 一般的、初歩的な健康状態の把握方法
2. 異常の早期発見の手がかり、方法
3. 初歩的な応急処置
4. 入所者に多い慢性疾患についての知識
5. 入所者が受けている治療や薬に関すること
6. 痴呆、情緒不安、精神障害者への対応方法
7. 栄養、排泄、睡眠、清潔など、日常生活の援助に関すること
8. 日常生活動作の拡大や安静に関すること
9. その他 ()

S Q 1 できれば知識を伝えたり、相談・助言に応じたいと思いますか。

1. はい
2. いいえ

S Q 2 しない、あるいはできない理由は何でしょうか。

()

*この欄には記入しないで下さい。

 9

 18

 19

 20

問20 入所者に、せん妄、幻覚、妄想、抑うつ、自殺念慮、心気症などの精神症状がひどくなった時、あなたは
先ず何をしますか。特別な場合でなく一般的な場合について、主なもの1つに○をつけて下さい。

1. 医師に報告し、改善策を考えてもらう。
2. 看護職と寮母とで改善策を考え対応する。
3. 寮母に一任している。
4. その他 ()

→今までの改善例

()

 21

 22

問21 入所者に、暴力、はげしい徘徊、拒食などの異常行動が出現し対応に困った時、あなたは先ず何を
しますか。特別な場合でなく一般の場合について、主なもの1つに○をつけて下さい。

1. 医師に報告し、改善策を考えてもらう。
2. 看護職と寮母とで改善策を考え対応する。
3. 寮母に一任している。
4. その他 ()

→今までの改善例

()

 23

 24

問22 看護職と寮母とがともに参加するケースカンファレンスを行っていますか。

1. はい
2. いいえ
- S Q 1 看護職、寮母以外の職種の人が参加しますか。参加する職種すべてに○をつけて下さい。
1. 看護職、寮母のみで他職種は参加しない
2. 生活指導員
3. 医師
4. その他 ()
- S Q 2 どれぐらいの頻度でケースカンファレンスを行っていますか。
1. 定期的に行っており週 回または月 回
2. 必要に応じて行っており月 回ぐらい
- S Q 3 カンファレンスで検討された改善策に関して、後日のカンファレンスで結果の評価を行っていますか。
1. はい 2. いいえ
- S Q 1 できれば寮母と一緒にカンファレンスを行いたいと思いますか。
1. はい 2. いいえ
- S Q 2 しない、あるいはできない理由は何でしょうか。

()

*この欄には記入しないで下さい。

25

29

30

32

33

34

35

問23 入所者の夜間の病態変化に関して、どのような対応策をとっていますか。該当するものすべてに○をつけ、そのうち主たる方策を1つだけ選び◎をつけて下さい。

1. 常時看護職員が夜勤をしている。
2. 病状が不安定な入所者がいる時には、看護職員が夜勤（または当直）をする。
3. 寮母が看護職員に連絡し、看護職員が電話で指示またはホームに出向くことにしている。
4. 寮母の連絡により、協力病院（または診療所）の応援を求める。
5. 寮母が直接医師に連絡し、指示をうける、または往診してもらうことにしている。
- S Q 1 看護職員は自宅待機制をとっていますか。
1. 常時誰かが待機するようにしている。
2. 必要時のみ誰かが待機するようにしている。
3. 特に待機制はとっておらず、寮母がその時自宅にいる看護職員に連絡をとる。
4. その他 ()
- S Q 2 看護職員が勤務していない時間帯に入所者の病態が急変し、寮母より看護職員に連絡があった件数は、過去1年間およそどれ位ありましたか。
- (イ) 寮母より連絡があり、電話による指示だけですんだ
1. なし 2. 1～5回 3. 6～10回 4. 11～15回 5. 16～20回
6. 21～30回 7. 31～40回 8. 41～50回 9. 51回以上
- (ロ) 寮母より連絡があり、看護職員がホームに出向いた
1. なし 2. 1～5回 3. 6～10回 4. 11～15回 5. 16～20回
6. 21～30回 7. 31～40回 8. 41～50回 9. 51回以上

36

41
 42

43

44

問24 病状が不安定な入所者がいる時、夜間に起こりうる変化とその対応方法を、昼間のうちに寮母に伝えてありますか。

1. はい 2. いいえ

→ S Q 1 できれば伝えておきたいと思いませんか。

1. はい 2. いいえ

→ S Q 2 しない、あるいはできない理由は何でしょうか。

()

*この欄には記入しないで下さい。

45

46

47

問25 次の様な場合に、看護職ほどの範囲で医療処置を行いますか。(イ)、(ロ)、(ハ)各々について選択肢に1つだけ○をつけて下さい。

(イ) 軽微な症状が出た場合

1. 医師の往診時の指示の範囲で行う。
2. 1.に加え、必要に応じて医師に電話連絡し、指示が得られる限りにおいて行う。
3. 1.2.に加え、医師との間であらかじめ取り決めた約束処方にもとづいて行い、事後医師に報告する。
4. その他 ()

48

(ロ) 病態急変時

1. 医師の往診を求め、その指示にもとづき行う。
2. 1.に加え、医師に電話連絡し、指示が得られる限りにおいて行う。
3. 1.2.に加え、医師との間であらかじめ取り決めた約束処方にもとづいて行い、事後医師に報告する。
4. その他 ()

49

(ハ) 終末期

1. 医師の往診時の指示の範囲で行う。
2. 1.に加え、必要に応じて医師に電話連絡し、指示が得られる限りにおいて行う。
3. 1.2.に加え、医師との間であらかじめ取り決めた約束処方にもとづいて行い、事後医師に報告する。
4. その他 ()

50

問26 入所者に入院・通院治療を受けさせるか否かについて、本人、家族の意向をふまえた施設側の判断は、実質的に誰が行うことが多いですか。いちばん多い人を1人だけ選んで下さい。

1. 医師
2. 看護職
3. 寮母長
4. 生活指導員
5. 施設長
6. ケースによる
7. その他 ()

51

問27 入所者を入院させるか否かについて、看護職としての判断基準(または他職種との合意事項)はありますか。

1. ある
2. はっきりしたものではないがおおよその目安はある
3. 特にない

→ S Q どのような内容ですか。

()

52

53

問31 看護職員の残業時間はどれ位ですか（残業手当の対象とならなかった時間を含む）

(イ) 過去1年間で最も多かった月の看護婦1人当たり平均

1. 5時間未満 2. 5～10時間未満 3. 10～15時間未満 4. 15～20時間未満
5. 20～30時間未満 6. 30～40時間未満 7. 40時間以上

(ロ) 過去1年間で最も少なかった月の看護婦1人当たり平均

1. なし 2. 5時間未満 3. 5～10時間未満 4. 10～15時間未満
5. 15～20時間未満 6. 20時間以上

*この欄には記入しないで下さい。

6

7

〈入所者の変化及び今後のホームの保健医療のあり方についておうかがいします〉

問32 貴施設では、過去5年間の間に、病気や障害の重い入所者が増えていますか。

(イ) 身体面に関して

1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った

(ロ) 精神面に関して

1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った

8

9

問33 過去5年間の間に、病気・障害を持った入所者への職員の対応能力や、施設としての受け入れ能力は向上したと思いますか。

(イ) 身体的疾患、障害に関して

1. 向上した 2. 変わらない 3. 低下した
- その理由 ()

10

11

(ロ) 精神的疾患、障害に関して

1. 向上した 2. 変わらない 3. 低下した
- その理由 ()

12

13

問34 今、次のような病態の人が入所を希望したとしたら、貴施設では受け入れは可能ですか。可能と思うものすべてに○をつけて下さい（すでに受け入れている場合を含む）。また、今は困難であるが、今後受け入れられるようにしたいと思うものすべてに△印をつけて下さい。

1. バルンカテーテルを挿入している
2. 経管で栄養摂取している
3. 気管カニューレをつけている
4. 人工肛門を造設している
5. ペースメーカーをつけている
6. 定期的に注射をしている
7. 酸素療法を行っている（一時的なものを除く）
8. その他 ()

○

		15
		17
		19
		21
		23
		25
		27
		29

△

問38 入所者が入院し、症状が落ち着いて退院許可が出たものの、ホームでは受け止められないので他の病院に転院したというケースは、過去5年間の間に何名ありましたか。

1. ある 名 2. ない

→ S Q 受け止められなかった主な理由は、

(

→ S Q そのようなケースは概して増えていますか、減っていますか。

1. 増えている (その理由
 2. あまり変わらない
 3. 減っている
 4. まれなケースなので何ともいえない

*この欄には記入しないで下さい。

52
 名 54
 55

56
 57

問39 治癒は望めないが医療を必要とする入所者のケアについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけて下さい。

1. 施設内医療を充実し、もっとホームでみられるようにしたい。
 2. 医師や病院等の往診・協力体制は現状のままであったとしても、可能な限りホームでみるようにしたい。
 3. 医療は病院にゆだねる方がよい。

→ S Q ホームでみるようにしたいと思うのはなぜですか。

(

58

59

問40 あなたは、看護職員を増員できると仮定して、看護職員の夜勤をどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけて下さい。

1. 交代制による常時夜勤体制の導入を検討したい。
 2. 常時当直制の導入を検討したい。
 3. 可能な限り、看護職員も夜勤または当直に入るようにしたい。
 4. 夜勤あるいは当直以外の方法で夜間の対応はできる。
 5. 看護職員も夜勤をする方が望ましいが、多くの看護職が望まないため夜勤の実施は無理だろう。
 6. その他 (

60

問41 あなたにとって、貴施設で健康管理業務をすすめる上で何らかの支障がありますか。

1. ある 2. 特にない

→ S Q それはどのようなことですか。該当するものすべてに○をつけて下さい。また、あなたにとって最も大きな問題と思うもの1つに◎をつけて下さい。

1. 医師や病院の協力が不十分なこと
 2. 看護職の役割がホームの職員に理解されていないこと
 3. 看護職の組織上の位置づけが低く、業務遂行上必要な権限がないこと
 4. 寮母とのチームワークがうまくいかないこと
 5. 業務が多く忙しすぎる
 6. 自分の力不足
 7. その他 (

61

62

69

1990年調査 特別養護老人ホームにおける保健医療と看護

問42 特別養護老人ホームの看護のあり方、現状の問題と課題について、日頃思っていることを何でもご自由に書いて下さい。

*この欄には記入しないで下さい。

70

—長い間ご協力ありがとうございました—